

研究テーマ	内 容	発表方法, 媒体 (研究誌名, 研究会等名)
アジア現代美術に関する調査研究	過去2度にわたりアジアの現代美術に関する展覧会に関わり, 美術状況や作家の調査を行ってきた。その成果にたち, 開館記念展に招聘する作家の検討および交渉に当たるとともに, 中国作家・蔡國強の個展開催に向け調査研究を行っている(継続中)。	○論文「アジアの可能性」(アジアの想像力) 展カタログ(平成6年9月) ○論文「アーティクル9」(Project Article 9) 展カタログ(平成7年3月: アメリカ・クイーンズ美術館) ○論文「東南アジア美術の現在」(東南アジア1997・来るべき美術のために) 展カタログ(平成9年4月) ○美術講座「東南アジアの現代美術」(平成9年8月30日: 岡山県立美術館 = 同館主催) ○美術講座「現代美術の動向」(平成14年2月15日: 岡山県立美術館 = 同館主催)
日本近現代工芸に関する調査研究	陶芸を中心にした日本の工芸美術運動に関する調査研究を行い, その検討結果をもとに「開館記念展」の出品候補作の選定, 出品交渉を行う。	○論文「京都のやきものの先達たち」(平成1年: 『現代日本の陶芸家達』学習研究社) ○論文「石黒宗麿」他(平成4年: 『陶芸の遺産』マリア書房) ○論文「八木一夫の仕事」(平成7年: 『今日の手わざ』求龍堂) ○講演会「美術の現在および工芸の可能性」(平成14年6月13日: 多摩美術大学 = 同大学主催)
近代美術における官展の役割と成果に関する調査研究	文展を始めとする官展の流れについて研究を進めると共に, その成果を代表作によって紹介する「日展100年展」の準備を進めている(継続中)。	○論文「日本美術の20世紀ー20世紀末の地平から」(日本美術の20世紀) 展カタログ(平成12年9月) ○論文「宮之原謙」他(平成2年: 『昭和の美術』毎日新聞社)
日本の美術館の特質、活動、現状、課題等に関する調査研究	日本の美術館の現状と課題、美術作品の調査・収集・保存、展覧会や教育プログラムなどの展示・普及事業、学芸員の職務、美術館と関係機関、市民等との関わりなど、現在の美術館が抱える諸問題に関する研究を行ってきた。	○講演会「日本の現代美術」(平成8年10月1日: オーストラリア・ニューサウスウェールズ州立美術館 = 同館、国際交流基金主催) ○シンポジウム「広島から美術館と美術文化の意味を問い直す」(平成16年12月11日: 広島県立美術館 = 広島比較美術研究会主催、広島芸術学会共催、広島大学総合科学部後援)